



© sayaka

野鳥さが

発行者：宮原明幸 編集者：馬場順一 イラスト：中村さやか

日本野鳥の会佐賀県支部



踊る！ ミヤコドリ (東よか干潟 撮影：松田信義さん)

野鳥さが202号 主な内容

- 役員会報告-----2ページ
- 2015 さが環境フェスティバル in どん³の森のご案内-----3ページ
- 室内学習会報告-----4ページ
- 各地の観察会報告-----6ページ
- 皆さんからのおたより-----10ページ
- 皆さんからの野鳥&生きもの情報-----14ページ
- 有明海の満潮時刻-----15ページ
- 最近の新聞・情報誌の記事から-----16ページ
- クロツラヘラサギワークショップのご案内-----19ページ
- さやかの「フィールドノート」-----20ページ
- 近隣地区の観察会情報-----22ページ
- 観察会場までの案内-----23ページ
- 観察会などのお知らせ（2015年11月～12月）-----24ページ



●2015年度 第4回役員会

【日時】2015年10月11日(日)

【参加者】宮原明幸、田中丸雅雄、江里口立子、島田洋、青柳良子

【主な話し合い項目】

(1) カラス調査について

佐賀市環境政策課よりカラス調査を委託されている。

10月11日に佐賀市城内公園周辺4か所でカラスのカウントを行う。

(2) 環境フェスタについて

「2015 さが環境フェスティバル」に出展を予定している。

① 日時：2015年11月14～15日 両日とも10時～16時

② 場所：どんどんどんの森、佐賀市立図書館

③ 主催：佐賀市、佐賀環境コラボ

④ 出展内容：写真展、カササギの巣展示、バッジ・グッズ販売、DVD、エサ台作り等

⑤ 準備、展示運営、片付けにスタッフが必要

★ 詳細は2ページをご覧ください

(3) 図書館への支部報メール配信について

鹿島市民図書館から支部報のメール配信依頼があった。他の図書館からもメール配信の要望があるかもしれない。要望に応じて、支部報をメール配信する。

(4) 森林公園の樹木植栽について

森林公園では大規模工事が行われて多くの樹木が伐採された。

これに対する批判に対し、土木事務所も対応の姿勢を示してはいる。どのような樹木を植栽してほしいのか提案してほしいとのこと。支部からの提案をまとめていく。

(5) レンコン蓮田の防鳥ネットについて

レンコンのハス田に防鳥ネットが張られて多くの野鳥が犠牲になっている。

ハスに被害をもたらしているのは、野鳥よりもアカミミガメという説もある。

このような情報を関係者に提供していきたい。ひいては野鳥の犠牲を減らしていきたい。





2015 さが環境フェスティバル in どん³の森のご案内

日本野鳥の会佐賀県支部 2 回目の出展！

—昨年、この催しに初出展し、昨年は「バルーンフェスタ」に出展したのですが、やはり野鳥の会は「環境問題が中心」のこのイベントが趣旨に合うだろう ということで、また今年出展することにしました。

「野鳥たちが安心して棲める環境を！」という願いを多くの方に伝えられるといいですね。

【日 時】 11月14日(土)・15日(日) 10:00~16:00

【会 場】 どん³の森(佐賀市天神)

野鳥の会のブースは市立図書館駐車場を横切って 芝生広場に入り、左側になります。緑色の旗を立てますので、それを目印にいらしてください。

【展示内容】

- ① ラムサール条約に登録された干潟の鳥たちの写真・県内で観られる野鳥の写真
 - ② 佐賀県の鳥・カササギ・の巣や写真、バッジの紹介と販売
 - ③ 庭に野鳥を呼ぶためのエサ台づくり(牛乳パックで実演)
 - ④ 野鳥関連グッズの販売(Tシャツ、カレンダー、バッジ、図鑑など)
 - ⑤ 野鳥関連 DVD の映写
 - ⑥ 来場者へのプレゼント(野鳥の写真ハガキ)
- などを考えています。

そこで、会員の皆様にはお願いです。 次の6つの時間帯でお手伝いいただける方がいらっしゃいましたら、青柳良子(090-1659-7353)までご連絡ください。ブース当番は、来場者数のカウント・エサ台づくりの補助・写真の説明・DVDの入れ替え・プレゼント渡し・・・などの仕事があります。(各時間帯とも4名~5名)人手がたくさん欲しいのでよろしくお願いします。

- ・13日(金) 前日準備 ① 13:30~15:30
机・いす・パネル・カササギの巣・テレビ・DVDプレーヤーなどの搬入(小城から)
- ・14日(土) ② 9:30~12:30 ③ 12:30~16:00
- ・15日(日) ④ 9:30~12:30 ⑤ 12:30~16:00
⑥ 16:00~17:30 (後片づけ・・・小城まで運ぶ)

お手伝いいただいた方には昼食代として500円お渡しします。

ご連絡いただいた方に集合場所や駐車場などはお知らせいたします。

なお、主催者から「駐車場が少ないので、公共交通機関を利用するか、有料駐車場をご利用ください」とのことでした。(観察会に参加された折にパンフレットをお渡しいたします。)





室内学習会報告

(事務局：島田洋)

【行事名】 室内学習会「日本一の干潟東よか干潟（大授搦）を知ろう」

【日 時】 2015年9月6日（日）午後2時～午後4時

【会 場】 佐賀市天神 佐賀市立図書館多目的ホール

【参加者】 青柳良子、馬場清、友岡周一、田中照美、
中村さやか、佐田秀文、橋本泰博、田中丸雅雄、江口富
美子、加藤芳隆、蒲原泰代、中島修、中島由美子、高山
英一、中島かおる、久富文江、永島博、田辺恵子、益田
ミドリ、大川幸子、蒲原留美、宮原明幸、原秀親、柴原
とき子、宮崎八州雄、島田洋



(写真提供：馬場清さん)

【室内学習会概要】

支部では毎年9月初めに佐賀市立図書館で室内学習会を開催しています。今年も、有明海の「東よか干潟（大授搦）」と「肥前鹿島干潟（新籠）」がラムサール条約に登録されました。今年の室内学習会は有明海の干潟についての学習となりました。学習会行事の内容は、次の2つです。

- ① 宮原支部長の講演
配布資料名「ラムサール条約登録湿地 東よか干潟・肥前鹿島干潟」
- ② 有明海の野鳥写真展示 T シャツなどの物資販売。

宮原支部長の講演内容の概要を次のようにまとめてみました。

- ① ラムサール条約は、水鳥の生息地として国際的に重要な湖沼、河川、湿地、干潟などを保全することを目的とした国際条約である。
- ② 日本の干潟は、埋め立てなどにより、その多くが失われた。残された干潟の40%を占めるのが有明海の干潟である。
- ③ 東よか干潟は日本一のシギチドリの飛来地である。肥前鹿島干潟にも多数の渡り鳥が飛来する。
- ④ シギ類やチドリ類の多くは毎年決まった季節の渡りを行い、有明海にも多数が飛来する。
- ⑤ シギ類は、一般に胸が長く、茶色や灰色などの目立たない色をしている。何を食べるかによってくちばしの形も様々である。
- ⑥ チドリ類は一般に胸体が短い。やはり茶色や黒色、灰色などの目立たない色をしている。くちばしは一般に短い。
- ⑦ 種類によってエサも様々である。ゴカイやカニ、貝類あるいはバイオフィームなどを食するものもある。
- ⑧ 干潟の表面を覆うのはバイオフィームである。これは藻類やバクテリア、デトリタス（生物の死体などが分解されたもの）などで構成されている。
- ⑨ バイオフィームなどを餌としてカニ、貝類、ゴカイ類、ムツゴロウなどが豊かな生態

系を作っている。鳥たちの命を支えている。

- ⑩ しかし、様々な環境変化などあって多くの野鳥が絶滅の危機にさらされている。
- ⑪ ヘラシギに至っては世界にはわずか120つがいしかいないとも言われている。
- ⑫ 東よか干潟では周辺を含めて100種類以上が観察された。
- ⑬ 干潟の重要性をさらに認識し、その保全に努めていこう。

学習会の後半では質疑応答や情報交換が行われ、干潟以外の件にも話題は広がって行った。

- ① シギ・チドリの睡眠について？

渡りで飛行するときは、左右の脳が交代で眠る「半球睡眠」が知られている。

- ② ずっと何か食べているように見えるが休まないのかな？

渡りは、大変な体力を必要とする。栄養を十分に取る必要がある。

- ③ シギやチドリのライフサイクルについて？

春先に脂肪をため、4～5月にわたりを行い、5月には極地方に到着してペアを作り、繁殖する。9～10月に日本を經由してオーストラリアなどへと渡って行く。

- ④ まず親だけが渡って、その後若い鳥が十分にえさを食べてから飛行を始めるとも言われている。渡りのルートは刷り込まれているらしい。
- ⑤ 無事に成長できる個体数は少ない。毎年繁殖せざるを得ない。
- ⑥ 諫早湾の閉め切りから東与賀や鹿島に鳥が増えたように見える。
- ⑦ ハマシギが急減している。
- ⑧ 世界的規模で開拓は進む一方であろう。野生生物の生きる環境は厳しくなる一方である。
- ⑨ 福島原発の事故の後、放射線の影響でツバメにも異常が出ているようである。くちばしが曲がったり、白化現象などの報告がある。
- ⑩ ガンカモでは交雑種が目撃される事がある。シギやチドリでも同じ現象はありと推測される。
- ⑪ 山間部などではシカやイノシシによる影響も大きくなっている。
- ⑫ ソウシチョウなど外来種の放鳥なども様々な問題を起こしている。

午後4時過ぎに行事は終了しました。

干潟に関する知識を広げるいい機会になったと思います。





各地の観察会報告



■東よか干潟（大授揚）観察会報告（佐賀市）

①【日時】 平成 27 年 8 月 30 日

【参加者】 加藤芳隆、中村さやか、青柳良子、清水恵弘、渋谷一明、千住利夫、友岡周一、橋本泰博、中島修、中島由美子、馬場清、宮原明幸、上野武美、久富文江、永島博、新田直哉、八木ひとみ、田中丸雅雄（案内役）

【観察された野鳥】アオサギ、ダイサギ、ムナグロ、ダイゼン、シロチドリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、オグロシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ダイシャクシギ、ハウロクシギ、アカアシシギ、コアアシシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、キョウジョシギ、オバシギ、コオバシギ、トウネン、ヒバリシギ、ウズラシギ、サルハマシギ、ハマシギ、キリアイ、エリマキシギ、ウミネコ、トビ、ハヤブサ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ツバメ、スズメ、ハクセキレイ

【案内役からの一言】

集合時刻の 9 時には潮高 6.0m の満潮で、シチメンソウヤードの通路も水没し、水深 20cm となる。

鳥たちは堤防前の捨石上で休息中。

堤防上より観察を始める。捨石上にはハマシギ、トウネン、ウズラシギ、メダイチドリなど小型のシギ・チドリ。コンクリート通路が現われると、ダイゼン、オバシギの中型のシギ・チドリ。

途中、ハヤブサが現われ一斉に飛び立つが、深追いされずに元の捨石に戻る。

開始 1 時間半後には干潟が出現し、ダイシャクシギ、

ハウロクシギなど大型のシギ・チドリも干潟に戻ってくる。

秋の渡りの最盛期で、25 種類のシギ・チドリが観察できた。



（写真提供：八木ひとみさん）

②【日時】 平成 27 年 9 月 13 日

【参加者】 原野正道、原秀親、宮原明幸、友岡周一、永島博、長者原恵美子、当麻サエ子、松田信義、高橋良子、酒井浩子、酒本輝夫、池野進、杉山みどり、嶋津功、嶋津よし子、中島修、中島由美子、加藤勝則、高山英一、中村さやか、田中照美、江口富美子、島田洋、蒲原留美、柴原とき子、橋本泰博、新田直哉、田中丸雅雄（案内役）

【観察された野鳥】コガモ、キジバト、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、カラシラサギ、ムナグロ、ダイゼン、シロチドリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、セイタカシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ダイシャクシギ、ハウロクシギ、ツルシギ、アカアシシギ、コアアシシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、オバシギ、コオバシギ、トウネン、ウズラシギ、サルハマシギ、ハマシギ、ヘラシギ、キリアイ、ミサゴ、トビ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、

ショウドウツバメ、ツバメ、セッカ、ハクセキレイ、モズ

【案内役からの一言】

今年5月に東よか干潟と同時にラムサール条約に登録された“涸沼”を有する日本野鳥の会茨城県の8名、大阪支部の2名、千葉県の1名を迎えての観察会となった。

前日に今秋初めてヘラシギが確認され、早朝より県外を含む多くの人たちが集まる。満潮前、集合場所の展望台前の干潟でヘラシギを発見。 全員一斉に1羽のヘラシギ目指して集まる。 9時には干潟は水没し、ヘラシギも1km西の捨石上に移動。全員ヘラシギを追いかけて移動。

この日は珍鳥ヘラシギ観察会となり、他のシギ・チドリにはあまり目がいかなかったが、24種類観察できた。



「日本野鳥の会 茨城県」の皆さんとの観察会（中央の写真は白石町の蓮田を観察中）
（写真提供：左・中・・・中村さやかさん、右・・・八木ひとみさん）

③【日時】 平成27年10月18日

【参加者】 石丸光、上野武美、大川幸子、大川裕也、加藤芳隆、蒲原泰代、島田洋、田中千恵子、友岡周一、永島博、中島修、中島由美子、中村さやか、新田直哉、二宮尚子、橋本泰博、久富文江、福田康典、牧山愛子、牧山優一、宮原明幸（案内役）

【観察された野鳥】コガモ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、クロツラヘラサギ、ダイゼン、シロチドリ、メダイチドリ、ミヤコドリ、オオハシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ハウロクシギ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、クサシギ、ソリハシシギ、イソシギ、オバシギ、コオバシギ、トウネン、ハマシギ、ズグロカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、モズ、カササギ、ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ショウドウツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ

【案内役からの一言】

本日の満潮は11時50分。 集合案内が9時でしたので干潟の観察には間があり、後背地を回ります。 普段は、後背地での観察はしませんが、21種類の鳥が確認出来ました。 干潟は、渡り途中のシギチでまだまだ賑わっていて、ズグロカモメ・クロツラヘラサギの越冬組も入って来ています。 満潮の頃には陽炎が立ち、早めの鳥合わせ解散となりました。

■ツバメのねぐら観察会報告（佐賀市）

【日時】 平成 27 年 8 月 30 日

【参加者】 青柳良子、黒木尊信、黒木厚子、江里口立子、江里口武志、宮原明幸、江口富美子、千住利夫、馬場清、中島修、中島由美子、上野武美、原秀親、八木ひとみ、中村さやか・弘一郎・みどり、坂本啓次、坂本律子、永島博（案内役）

【案内役からの一言】

ツバメのねぐらの観察会は今回が初めてだということで、緊張して現地へは行きました。6時過ぎ、もうすでに数十羽のツバメがやって来ていました。そのまましばらく待ちます。日の入りは6時48分。それを知っているかのように、北から東から少しずつ少しずつ集まってきます。まだまだ、まばらです。それからはあれよあれよという間に、すごい数にふくれあがります。上空では大きな群れが一斉に動いて、別の群れと交錯します。「うわあーすごい！すごい！」歓声があがります。手をふっている方もいらっしゃいます。視線を下に移すと芦原のすぐ上をたくさんのツバメが一斉に同じ方向へ飛びまわります。上も下もツバメだらけです。3万羽はいるのでしょうか。すごい数です。そしてやがて、みんな芦原の中へ入っていきました。時計を見ると7時10分。つかの間のひとときでした。今回、観察会を行うにあたって正直すごく不安でした。というのも、日によってはあっけなくねぐらへ入って物足りない日も多々ありました。でも、そんな不安をよそに、本当に楽しませてくれました。また来年もできたらと思います。

■鏡山・ハチクマの渡り観察会報告（唐津市）

【日時】 平成 27 年 9 月 20 日

【参加者】 青柳良子、江口勝高、江口純正、江越天良、加藤芳隆、金子泰久、蒲原留美、久我浩人、小柳政春、島田洋、千住利夫、丹野譲、寺村朋輝、樋高秀憲、徳永哲、徳永星也、徳淵孝子、徳淵義実、豊岡三郎、中島修、中島由美子、永島博、中原正義、中村彰夫、野上駿、橋本泰博、原秀親、原野正道、久富文江、深村徹、福田康典、堀隆三、松尾亜紀彦、松尾浄子、松原忠夫、松原はま子、宮崎末徳、八木ひとみ、山口武昭、横尾香奈美、宮原明幸（案内役）

【観察された野鳥】アマツバメ、ハリオアマツバメ、ミサゴ、ハチクマ、トビ、コゲラ、サンショウクイ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、エソビタキ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ

【案内役からの一言】

「日本野鳥の会佐賀県支部」と「佐賀野鳥の会」での合同探鳥会です。例年、鏡山でのハチクマの渡り観察会は、時期が限定されることもあり同じ日に重なっていました。今年から先は、同時開催での観察会に致します。どこまでも晴れ澄んだ秋空です。観察会を始めるに際し、佐賀野鳥の会の中村彰夫会長より挨拶を頂戴致し、出発です。挨拶の最中にも上空を1羽、歓迎に来たのでしようハチクマが舞います。

合同ということもあり参加者は40名強。そろそろと渡り途中の小鳥を探しに森へ。このところ天気に恵まれ、渡る鳥達は抜けてしまったのか？多くはいません。ハチクマは、三々五々近く遠く通過して行きます。タカ柱も大きな規模はありませんでしたが観察出来ました。渡り便を待つ間、皆さん会をまたいで和やかに鳥談義に花を咲かせていらっしゃいます。今後も、機会がありましたら「佐賀野鳥の会」との交流探鳥会をして行きたいと考えます。



写真提供
八木ひとみさん



ハチクマ&観察中の皆さん

エゾビタキ（上）とコサメビタキ（下）

■第209回森林公園観察会報告（佐賀市）

【日時】 平成27年10月11日

【参加者】 宮原明幸、堀隆三、友岡周一、甲木弘美、中島修、中島由美子、田中照美、原秀親、二宮尚子、松浦郁子、松浦美優、野口萌花、原田貞、田中義一、江里口立子、永島博、上野武美、青柳良子、久富文江、芝原とき子、古川恵子、加藤義隆、田中丸雅雄、島田洋（案内役）

【観察された野鳥】 カワウ、アオサギ、カルガモ、アオアシシギ、イソシギ、ドバト、キジバト、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、シジュウカラ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

【案内役からの一言】

秋空です。森林公園はまだ工事が続いておりました。フェンスの向こうは、芝生が広がり、遊具が設置されています。森林公園と呼ぶには程遠い風景でした。野鳥の数も種類も少なく参加者には申し訳ない限りです。時々現れる昆虫やくモ、植物の話などを提供して、時間をつなげたような次第でした。たよりの昆虫も種類・数ともすこぶる少なく、悲しくなります。

嘉瀬川にはカルガモ4羽とカワウなどさびしい限りでした。

もう少ししたら冬鳥が来るでしょう。来月の観察会に期待したいと思います。



皆さんからのおたより



●山澤 健一さん（茨城県神栖市）

①「鳥図の鳥たち 第8回」

今回登場の鳥たちは本州ではこの時期に通過する旅鳥のノゴマ、冬鳥のツグミ、留鳥のヤマガラです。鳥図ではノコ鳥と記載してある個体がノゴマと思われます。のどの赤色が特徴なので。次のツグミはルビがふってありツグミと判りますが彩色が途中と見えて、左足や羽の箇所には指示書きがあります。ヤマガラは表記が山カラと濁っていません。この図譜ではわりと現代の表記では濁っているものが、たとえばヒヨトリのように濁っていません。



ノコ鳥（ノゴマ）



桃花鳥（ツグミ）



山カラ（ヤマガラ）

②「夏のオシドリのその後」

野鳥さが201号に掲載された「夏のオシドリ」の後日談です。（編集注①）

現在、主として観察している茨城県の潮来近辺では5月頃であれば希に田植えの終わった水田での観察例があったが、この季節（7/19）は無いとの先入観があり、繁殖しているとの認識はなかった。このことを野鳥の会茨城県の会報の「鳥だより」に投稿（8/18）した。この1週間後あたりから当地でのオシドリの幼鳥、メスの成鳥、エクリプスなのか判別できない個体が観察された。この判別できないのは今まで繁殖例がないためであり、このことを含めて「鳥だより」の担当の方に見解を伺ったところ、このことが野鳥の会茨城県の支部長の池野氏に転送された。池野氏の見解では、この時期正常ならエクリプスで嘴はピンク色をしているが、この個体は体調不良により越夏したと思われ、羽色がさええないのは栄養不足のためとありました。

現在これらのオシドリは毎年の冬に観察している大膳池に移動しています。この池の周囲はドングリが豊富であると20年もすれば夏の空をカルガモと一緒に飛んでいるでしょうともコメントいただきました。

編集注①・・・「夏のオシドリ」の写真はネット配信のカラー支部報のみの掲載で、紙の支部報には掲載されていませんので、もう一度写真を掲載します。



夏のオシドリ&カルガモ

●「大授搦での探鳥会に参加して」

・・・杉山みどりさん（日本野鳥の会 茨城県）

「ワーッ、スゴイー！！」 まず、干潟を埋めつくす大中小のシギやチドリの数の多さに圧倒され、目が点になってしまったのに、視点はワイドに全体をマスでしか捉えられず、個体を識別する余裕もありませんでした。

でも徐々に目が慣れると、大きなホウロクシギ、ダイシャクシギ、まだ赤い色が残っているオオソリハシシギ等、判り易い鳥が認識されるようになってきました。

そして本日のメインイベントは何と言っても、そう、ヘラシギです。皆がヘラシギを探しているのに、どこにいるか教えて頂きながら、私も必死に干潟の泥の中を歩いて、ヘラシギを追いかけ始めました。実は、3週間前に北海道の根室で、「野付半島に、トウネンの群れに混ざってヘラシギがいるよ。」という話を聞いたのですが、生憎翌日は風雨が強く、見に行くのを断念していたのです。それがこの大授搦にいるなんて、凄い偶然だろうと思いました。しかもあのユニークな嘴の形状から、一度は見たいと思っていた鳥です。ところが、小さいうえに周りには同じようなサイズのシギたちばかり。しかも、少しずつ潮が満ちてきて小さいサイズのシギチから干潟の浅いほうへと少しずつ移動し始めてしまいました。私のように不勉強なものには、とても探すのは難しかったのですが、ついに感動の対面を果たしました。とても嬉しかったです。

干潟では、想像していたより潮が満ちてくるのが速く、あれよあれよという間に足もとまで海水が押し寄せてくるのにびっくりしました。

暫くすると後再び潮が引き始め、鳥たちがまた戻ってきてにぎやかになった干潟、でももう海水が上がってこないことを分かっているらしく、ほとんどの鳥たちが休息の姿勢になってしまい、ますます識別が難しくなりました。それでも懸命にキリアイ等を見つけて観察を楽しんでいましたが、あっという間に探鳥会は終わってしまいました。

「また、機会を作って戻って来たい！そしてその時はもっと落ち着いて観察できるようにしよう！」と心に誓い、後ろ髪を引かれながら、大授搦を後にしたのです。

今回は、茨城県の洶沼とこの佐賀県の大授搦（東よか干潟）が同時にラムサール条約湿地に登録されたというご縁で、日本野鳥の会茨城県の有志8人で参加させて頂きましたが、私たちの地域にはこのような大きく素晴らしい干潟はないので、本当にこの地域の方々が羨ましいです。

最後に色々教えて頂いた佐賀県支部の皆様、そしてとくにお世話になった青柳様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

それに、鯉の洗い、ムツゴロウ等、みな美味しくいただきました。

事務局より 日本野鳥の会茨城県の会長・池野進さんから「カササギバッジまだありますか？」という問い合わせのメールがきっかけで9月13日（日）東よか干潟の観察会に合流、その後 佐世保のアカハラダカ観察にと言う流れになりました。

茨城県はラムサール条約登録のいわば“同期生”です。8名の方がいらっしゃいました。その中のお一人「杉山みどりさん」からお便りをいただきましたのでご紹介しました。



●青柳良子さん（小城市）

①「ツバメのねぐら」観察会（8/30）に参加して

「ツバメたちは、巣立った後は川原のヨシ原でねぐらをつくる」ということは本を読んで知っていましたが、テレビの自然番組でも見たことはありますが、実際に自分の目で見たことはありませんでした。

3年ぐらい前でしょうか、森林公園の観察会が終わって鳥合わせをした後、参加者の永島博さんから「ツバメのねぐらを見つけました」というお話を聞きました。その時はもう夏の終わりだったので（来年みんなで観に行けたらいいなあ・・・）と思っていましたが、今年8月初め頃（？）永島さんから「ツバメのねぐらがわかりました！」という電話がありました！

そこで支部報発行を予定より早め、8月30日を「初体験の日」と決めました。

日の入り時刻と同時にあっちからこっちから ツバメたちが集まって来ます。

参加者からは「来た！ 来た！」「すごい！すごい！」と感動の台詞が飛び交いました。

20年も野鳥の会会員だという支部長・宮原氏も「初めて観た！」と感動していました。

ツバメの数はとても数え切れませんが3万羽ぐらいだったのでしょうか？

やって来たツバメたちはヨシ原の上を右に左にと飛んでいましたが、30分もするとヨシに身をひそめ、暗闇とともにすっかり姿が見えなくなってしまいました。

永島さんに「どうしてここがねぐらだということがわかったのですか？」と聞いてみましたら「ツバメの飛んでいく方向を追いかけてみた」とのこと。

前回みつけたところは工事で様子が変わってしまったので、去年はなかなかわからなかったそうです。

ここ早津江川沿いは来年もねぐらになると思われるので、早めに皆さんにお知らせして、沢山の方に見ていただけるようにしようと思いました。

ツバメを追いかけてねぐらを突き止めた永島さんのことを「純粋な熱意」と評した方がいらっしやいました。ホントにそう思います。

ツバメ・・・こんなに身近な野鳥のことをもっと知ってあげなければ！

永島さんには心から「ありがとう！」と思いました。

【追記】

いったいツバメはいつごろまでヨシ原にとどまるのだろうか？と思い、永島さんにその後の様子をお聞きしました。9月28日には「ツバメの姿はあったがショウドウツバメのようだった」とのことでした。街中を賑わせてくれたツバメたちは、9月20日過ぎには南の国に向かって飛び去ったようです。無事目的地に到着してくれることを祈るのみです。再度 永島さんに「ありがとう！」でした。



②「ゴミ拾いボランティア『グリーンバード』の活動に参加して」

9月27日(日) 東よか干潟の清掃活動がありました。主催は「グリーンバード」というボランティア団体でした。宮原支部長の都合がつかなかったので私が替わりに行きました。「野鳥の会から話をしたい」とのこと。シギチが苦手な私が話をするのは心苦しいのですが「干潟の豊かさと、ここに来る絶滅危惧種の鳥の写真でも見せて・・・」ということでしたので、写真を持って出かけました。

「有明海ぐるりんネット」の竹下さんがとてもいいお話をしてくださって「干潟のこと」は充分説明して下さいました。

野鳥の会からは江口富美子さん・田中照美さん・友岡周一さん・永島博さんが参加して下さいましたので、写真を持っていただいてちょっとお話をしました。

この活動に参加された方は50名余り。子ども連れの家族や大学生らしいグループなど若い方々が多かったです。翌日、主催者から「参加者から『何気なく見ていた有明海だったけど鳥たちにとって大事な場所だと知り見方が変わった。』など『お話が聞けてよかった』という感想が寄せられた。」とメールをいただきました。このメールには嬉しく思いましたが、私たちは野鳥を観て楽しむ時間が多いわりには、野鳥のための清掃活動や保護活動にかかる時間が少ないのではないかと考えさせられました。

野鳥の会会員の皆さん！「どこでどんなことができるのか」考えてみませんか？

●「鳥類センターのおはなし」・・・八木ひとみさん

「シロフクロウ(幸ちゃんと福ちゃん)」に会いたくて久留米市の鳥類センターに行きました。奥にひっこんでいるのか、姿が見えません。残念！！

「ノスリ」などの猛禽もいました。間近に「アカツクシガモ」などが放し飼いされていてびっくり！小さい子供が「なでなでしたい～」といてました。

日本でここでしか見られないという鳥も多く展示されていました。

写真はアカツクシガモ、ワライカワセミ(オーストラリア)、アカハシリウキュウガモ



※デジブックを作りました。ぜひともご覧ください。

デジブック『鳥見 8月、9月』

<http://www.digibook.net/d/4d84af73b09988713d750a74249496de/?m>





皆さんからの野鳥&生きもの情報



(紙面の都合上、東よか干潟は大授撮、肥前鹿島干潟は新籠と従来通りの表記にしています。)

■宮崎 八州雄さん (鹿島市)

- 8月25日 【新籠】ダイゼン 1、トウネン 1、ウズラシギ 2、タカブシギ 8、ソリハシシギ 62、チュウシャクシギ 36
- 8月29日 【大授撮】コチドリ 2、コオバシギ 9、サルハマシギ 1、ウズラシギ 6、ヒバリシギ 1、キリアイ 8、アカアシシギ 8、エリマキシギ 3、オグロシギ 21、チュウジシギ? 2、ウミネコ 27 コアシサシ 2、ツメナガセキレイ 1
- 8月30日 【唐津市七ツ釜沖】バンドウイルカ? 10+
比較的岸に近い所をタイトな群れで数分おきに潜行・浮上した。
佐賀県沿岸でスナメリ、コビレゴンドウ以外のクジラ、イルカ類は見たことがなかったので少々驚いた。
- 9月6日 【伊万里市八谷掬】ヨシゴイ 1
【伊万里市長浜干拓】ヘラサギ 1、チュウジシギ? 1、セイタカシギ 2、バン (雛) 2、ツメナガセキレイ 2
- 9月7日 【新籠】タカブシギ 4、ソリハシシギ 52、オオソリハシシギ 2、ダイシャクシギ 5、ホウロクシギ 9
- 9月11日 【鹿島市山浦】アカハラダカ 67、ヤマドリみ 1
【鹿島市浜干拓地先】ハヤブサがダイサギを仕留めた直後に、近くにいたダイサギ 50 羽以上が集まって降り、ハヤブサは獲物を放置し飛び去る。サギがこのような行動をするとは、かなり驚いた。
- 9月12日 【大授撮】ヘラシギ幼鳥 1、キョウジョシギ 1 ほか
- 9月23日 【新籠】アカアシシギ 5、ソリハシシギ 78

■馬場 清さん (嬉野市)

- 9月1日 【嬉野市塩田町】自宅裏の杉の木頂上にて、モズの高鳴き (初認)
- 9月20日 【嬉野市塩田町】自宅裏の杉の木頂上にて、シジュウカラ、ヒタキ類など 10 数羽の混群が虫を探す。(初認)
- 10月6日 【塩田川】河口より約5km 上流の塩田津付近でカモ 7 羽 (初認)
種類不明。

■安井 淳一郎さん (佐世保市)

- 9月22日 【佐世保市冷水岳】ハチクマ 988、アカハラダカ 33、チゴハヤブサ 1、ハヤブサ 1、サンショウクイ 1、コムクドリ 15
- 9月22日 【佐世保市冷水岳】ハチクマ 203、アカハラダカ 1、チゴハヤブサ 1

■小松 常光さん（唐津市相知町）

カササギ情報 8/5 相知町千束、8/27 相知町伊岐佐、9/19 相知町上園②、相知町千束、9/27 唐津市双水、10/4 相知町相知②、10/5 唐津市鏡神社近く

- 9月22日 【相知町大野】トビ数十羽（稲刈り跡）
【小城市江里山】キセキレイ
- 9月23日 【福岡県二丈】コジュケイ（鳴き声・2か所）
- 9月29日 【相知町山崎上空】トビ20数羽
- 10月1日 【相知町】コジュケイ（鳴き声）、ホオジロ
- 10月2日 【相知町】キジバト2
- 10月3日 【県立美術館上空】ミサゴ
- 10月5日 【松浦川河口付近】ミサゴ
- 10月6日 【相知町】コジュケイ（鳴き声）、ホオジロ、ヒヨドリ
- 10月9日 【相知町】ヤマガラ、ハクセキレイ、キジバト
- 10月10日 【相知町】ホオジロ（右の写真）



■松田 信義さん（佐賀市）

10月13日【大授搦】ミヤコドリ2 10月15日【大授搦】ミヤコドリ3



有明海の満潮時刻（白石・住ノ江港）



11月	1(日)	12:19/5.1m	23:57/4.7m	12月	5(土)	3:53/3.7m	16:23/4.1m
	3(祝)	0:35/4.3m	13:50/4.3m		6(日)	5:24/3.9m	17:29/4.3m
	7(土)	6:18/4.3m	18:29/4.7m		12(土)	9:54/5.3m	21:41/5.2m
	8(日)	7:01/4.7m	19:07/5.0m		13(日)	10:32/5.3m	22:18/5.2m
	14(土)	10:39/5.3m	22:27/5.2m		19(土)	2:13/4.3m	14:54/4.5m
	15(日)	11:12/5.2m	22:58/5.1m		20(日)	3:39/4.2m	16:10/4.5m
	21(土)	4:15/4.3m	17:00/4.7m		23(祝)	7:28/4.8m	19:27/5.0m
	22(日)	5:39/4.6m	18:05/5.0m		26(土)	10:00/5.4m	21:48/5.2m
	23(祝)	6:44/5.1m	19:00/5.3m		27(日)	10:39/5.4m	22:26/5.1m
	28(土)	10:51/5.5m	22:37/5.2m				
	29(日)	11:28/5.3m	23:10/5.0m				

満潮時刻と潮高をたしかめてから行こう！

- 東よか海岸
潮高 5.0m 満潮の2時間前くらいがベスト！
- 鹿島新籠海岸他
潮高 4.0m 満潮の1時間前後がベスト！

満潮時には、残された干潟に鳥が集まり、近くで見やすい状態になります。ただし、小潮だと遠すぎるし、大潮になると干潟が水没してしまって、鳥が移動してしまいます。）

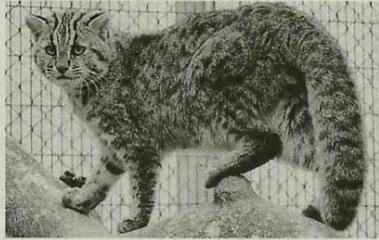




最近の新聞・情報誌の記事から



イリオモテヤマネコ（環境省西表野生生物保護センター提供）



ツシマヤマネコ（環境省対馬野生生物保護センター提供）

「ヤマネコ宣言」で連携

8日締結式 対馬市と沖繩・竹富町

今年から「ツシマヤマネコの日」と制定された8日、対馬市と国の特別天然記念

物イリオモテヤマネコが生息する沖繩県竹富町が「ヤマネコ愛—ランド共同宣言」を行う。国内に2種類しかない野生のヤマネコを通じ、連携して情報発信を行っていくという。

ツシマヤマネコと、竹富町の西表島に生息するイリオモテヤマネコは、ともに大陸から渡ってきたベンガルヤマネコの亜種とされる。成獣は体長70〜80センチ、体重3〜5キログラム。いずれも夜行性で警戒心が強く、ネズミや野鳥などを好む。どちらも、生息数は100匹前後と推定され、環境省のレッドリストで「絶滅危惧ⅠA類」に指定されている。

たが、今年がイリオモテヤマネコ発見（1965年）から50周年の節目を迎えたことから、対馬市が「ヤマネコつながりでもとにも島づくりをしたい」と提案して交流が実現。環境省や県、同市などで構成する連絡会議が定めた「ツシマヤマネコの日」に竹富町で共同宣言を行うことを決めた。

連携の締結式は、西表島の町離島振興総合センターで行う予定で、対馬市の比田勝尚喜副市長、竹富町の川満栄長町長が、人間とヤマネコが共生できる島と環境をつくっていくことをそろうて宣言する。

対馬市では10〜12日、ツシマヤマネコを人工飼育している沖繩市の動物園「沖繩こどもの国」でヤマネコ保護の啓発活動を行うほか、対馬高の生徒らが西表島を訪れてヤマネコの生息環境について学ぶ予定。

（島居義人）

（15/10/6 付け：読売新聞・長崎版 引地秀司さん提供）

野鳥の会報の話題として相応しいかどうかは判りませんが、「保護地同士で連携を図っていこう」という動きが感じられます。（引地さんの談）

記者
日記

道産子カチガラス

古川 浩司 整理部

今年の夏休み、旅先の台北市街地を散策中に、おなじみのカササギが公園で羽を休めているのに気づいた。しばらくして飛び立つ姿は、普段呼び親んでいるカチガラスそのもの。異国の地で郷土の鳥に出会い、旅の緊張が和らいだ。

カササギは、欧州からアジアまでユーラシア大陸を中心に生息する。以前韓国や中国大陸で見かけたことはあったが、亜熱帯の島である台湾でも難なく目にし、分布の広さを感じ入った。

一方、活動域が狭い国内のカササギは、今なお佐賀平野など北部九州に限られている、と思われる方が多いだろう。実は近年、苫小牧など北海道の太平洋沿岸部でも営巣が定着しているらしい。

カササギが北海道にやって来た経緯は不明だが、酪農学園大研究グループのDNA解析で、起源はロシア極東地域と判明したという。地元の北海道新聞などが今春報じていた。

生物多様性の保全や、在来種の保護が叫ばれる時代。道産子カササギが周囲の環境に迷惑をかけていないか。あるいは、住民に受け入れてもらえているのだろうか。なんとも気になる話である。今度、北海道に行く機会があれば、真っ先に会いに行ってみよう。

（15/9/10 付け：佐賀新聞）

探鳥日記

中村 さやか

今回は少し遠征して、佐賀市の東よか干潟へシギやチドリの観察に行きました。肥前鹿島干潟とともに6月にラムサール条約に登録されたばかりの干潟ですが、シギ・チドリの飛来数は日本一を誇る、佐賀県を代表する探鳥スポットとして有名です。

今の時季は、ロシアなどの北国で子育てを終えた渡り鳥たちが、越冬のため南の暖かい国へ移動する途中に日本へ立ち寄り、一休みしていきます。

この日はハマシギ、ダイゼン、オオソリハシギ、オバシギ、ソリハシギ、アカアシギなどを見ることができました。一番数が多いハマシギは、東よか干潟が越冬地です。春までここで過ごします。

(日本野鳥の会県支部幹事)

2015年 8月

佐賀市 東よか干潟

シギ・チドリの
ながまたち

シギ・チドリ飛来数日本一

探鳥日記

中村 さやか

嬉野市のため池でバンの親子を観察しました。親は真っ黒の体に赤いくちばし、赤い額が特徴的なクイナの仲間です。

ヒナは生まれてすぐは真っ黒のヒヨコのようにフワフワで、親の後を一生懸命に泳ぎながらついていきます。この時は4羽のヒナを見かけました。

佐賀のようにクリークやため池が多いところでは、よく見られるおなじみの鳥です。普段はヨシ原などの茂みに隠れていることも多く「クルルッ」という大きな声でバンがいることが分かります。

この鳴き声は人の笑い声に似ているとも言われていて、「鶺鴒(バン)の笑い」という俳句の季語もあるそうです。この声が聞こえたら、一句詠んでみたい気持ちになるかもしれません。

(日本野鳥の会県支部幹事)

2015年 9月

嬉野市のため池

バンの親子

クリークや、ため池でよく見かけます。親鳥はエビのようなものをしてヒナにあげていました。

バンの親子ほほえましく

干潟で食べよう

ブラックモンブラン限定版

渡り鳥の飛来地として知られる佐賀、鹿島両市の干潟が「ラムサール条約」の登録湿地になったことを記念し、佐賀生まれの定番アイスクリューム「ブラックモンブラン」にラムサール限定版が登場した。写真。野鳥観察をテーマにした今季のパッケージに、新たに登録地を示す地図などを加えた。42万本限定で九州・山口のスーパーやコンビニに並び、県内外にPRする。

ラムサール条約 登録記念

製造する竹下製菓(小城市)が今年の当たりくじに「バードウォッチゲーム」として県内で観察できる計8種類の鳥をマークに採用、5月の登録で「時宜を得た企画」と愛鳥家の話題になった。そこで県有明海再生・自然環境課が同社に限定版の開発を打診、500万円の予算を組んだラムサール干潟魅力発信事業の一環として取り組んだ。

新たに地図、「渡り鳥」の絵



県の地図を配し、両市の登録地を赤点で強調した。鳥のデザインも変え、渡り鳥で絶滅危惧種のクロツラヘラサギとシロチドリ、県鳥のカササギを描いた。日本野鳥の会の宮原明幸支部長(61)は「アイスを通じて地元の人たちが身近な鳥に興味を持ち、自然保護にも目を向けるいい機会」と歓迎。竹下製菓の担当者は「秋から冬にかけて本格的な野鳥観察のシーズン。干潟で鳥を見ながらアイスを食べる『ダブルバードウォッチング』を楽しんで」と話す。(田田浩一)

「有明海のエイリアン」と呼ばれるワラスボ、靴底のよつな形の魚クツコ、オオシヤミセンガイは文字通り三味線の形。有明海の独特な生き物を展示する私設水族館「おきのはた水族館」が福岡県柳川市にある。環境問題に取り組む市民グループ「有明海を育てる会」の近藤潤三会長(85)が「環境の悪化で珍しい生物がどんどん減っている現状を知ってほしい」と私費を投じて開設した。

有明海の生物で水族館

柳川市・近藤さん 環境保護訴え開設



近藤潤三さんと、激減した有明海の水産物の展示。福岡県柳川市のおきのはた水族館

点。漁具も展示され、近藤さんが昔ながらの漁法を解説してくれる。近藤さんは元九州・山口地区魚市場連合会会長。地元の生まれ、有明海の干潟で遊んで育った。当時は海産物が豊富だったが、その後、極端に減少。1980年代後半に二枚貝のアケマシタリ、清掃活動をしたりキが市場から姿を消し、続いている。二枚貝のウミタケやタイラギの水揚げがなくなった。「貝柱に黒点があるなど異常な貝も出てきた。人間の手で海が疲弊していくのを見ていられない」と話した。

アサリの不漁も続き、柳川市の観光会社は2年前から潮干狩りを中止している。スズキやエツなど魚も激減。シタビラメの漁獲量は95年の100分の1という。危機感から98年、地元漁師らと育てる会を結成。専門家とともに水質調査をしたり、清掃活動をしたりするようになった。多くの人に知ってもらおうと、5年前に水族館をオープンした。観光で訪れた青森県の見学学生佐藤環さん(39)は「有明海がこんなに深刻だったとは。干潟を見に行くまえにちゃんと勉強できてよかった」と話した。

鳥の話題ではありませんが、面白そうです。(15/10/12 付け：佐賀新聞)

ブラックモンブラン、続報！(15/10/5 付け：佐賀新聞)

「のぶさん」の MINI BIRD GALLERY

(写真撮影：松田信義さん)



背一高っ！シギ



ハマシギ 離陸中！



ニンジンを食べた？ミヤコドリ

●クロツラヘラサギ ワークショップのご案内●

ラムサール条約の登録湿地「肥前鹿島干潟」の鹿島市で、クロツラヘラサギ関連の催しが開催されます。韓国からクロツラヘラサギの研究者の方々もお見えになります。現地の繁殖の様子など、最新情報も聞くことができますよ。子供さん、お孫さんとの参加も大歓迎です。

【日時／場所】2015年11月8日（日）10:00～15:30

鹿島市納富分の鹿島市生涯学習センター「エイブル・研修室」

肥前鹿島干潟・ラムサール条約登録記念イベント

ようこそ鹿島へ!!
アジアのともだち
クロツラヘラサギ

クロツラヘラサギが
結ぶ日韓交流



11月8日  **10:00**
15:30

エイブル・研修室(鹿島市生涯学習センター)
佐賀県鹿島市納富分2700-1 TEL0954-63-2125

参加費:無料/昼食持参/要申込み・定員50名(雨天の場合:室内プログラムで実施)
※中学生以下は必ず保護者同伴でご参加ください。

クロツラヘラサギは東アジアのシンボルバードで、約3,000羽しか確認されていない絶滅危惧種です。トキの仲間の渡り鳥で、鹿島市の干潟にも毎年10月～5月にやって来ます。このイベントは、クロツラヘラサギが産まれる韓国の専門家2人からヒナのことや生息環境のことを学習する貴重な機会です。そして、韓国の子どもたちから届いた「国際協力でクロツラヘラサギを守りましょう」という手紙にみんなで返事を書きましょう。

(プログラム)
「肥前鹿島干潟とラムサール条約」鹿島市
「クロツラヘラサギの繁殖地の様子と啓発活動」Bak Sunyoung (韓国・ERF)
「クロツラヘラサギのための環境保全」Kim Kyungwon (韓国・ERF)
クロツラヘラサギの観察&昼食 浜川河口～肥前鹿島干潟へ移動(マイクロバス)
(★昼食持参) 現地解説:宮崎八州雄、中村さやか、藤井直紀 ほか
韓国の友達へ手紙を書こう(エイブル研修室)/中村さやか

申し込み・問い合わせ **0954-60-4424** 日本クロツラヘラサギネットワーク:中村

◆主催/日本クロツラヘラサギネットワーク ◆共催/鹿島市
◆後援/佐賀大学低平地沿岸研究センター・日本野鳥の会佐賀県支部



鹿島市 浜川河口



韓国・江華島



クロツラヘラサギ



韓国・江華島



鹿島市 浜川河口





近隣地区の観察会情報

日本野鳥の会本部HPにも最新の探鳥会情報
がありますよ！ → <http://www.wbsj.org/>

■日本野鳥の会 福岡支部 (参加費一般 300 円・会員 100 円・中学生以下無料)

日時：11月1日(日)、12月6日(日) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：福岡市・今津、雨天中止 / 集合：9:00 玄洋高校北西の端道路

日時：11月3日(火)、12月1日(火) 10:00~ (定例探鳥会) ※集合時間にご注意を！

場所：春日市・春日公園、雨天中止 / 集合：10:00 旧公園管理センター前 (第5駐車場横)

日時：11月14日(土)、12月12日(土) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：福岡市・大濠公園、雨天中止 / 集合：9:00 公園ボート乗り場前

日時：11月8日(日)、12月13日(日) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：福岡市・和白海岸、雨天中止 / 集合：9:00 JR 和白駅前の和白公園

日時：11月15日(日)、12月20日(日) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：筑紫野市・天拝山、雨天中止 / 集合：9:00 天拝山歴史自然公園水上ステージ横

日時：11月28日(土)、12月26日(土) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：福津市・久末ダム、雨天中止 / 集合：9:00 久末ダムの多目的広場横の駐車場

■日本野鳥の会 筑後支部 (参加費 100 円)

日時：11月1日(日) 10:00~ (定例探鳥会)

場所：朝倉市・甘木公園 / 集合：10:00 甘木公園噴水駐車場前

担当：木原直人さん 携帯：090-4516-4467

日時：11月8日(日) 9:00~ (定例探鳥会)

場所：久留米市・高良山 / 集合：9:00 高良山下宮社

担当：溝田泰博さん 携帯：090-4357-3043

日時：11月15日(日) 鎮西湖・筑後川・巨瀬川 (企画探鳥会)

場所：久留米市 / 集合：9:00

担当：溝田泰博さん 携帯：090-4357-3043

日時：11月22日(日) 9:00~ (定例探鳥会)

場所：大牟田市・濃施山公園 / 集合：9:00 濃施山公園内すいせん橋

担当：野田達行さん TEL：0944-58-1672

FLOWER GALLERY " 秋ですわ "

(撮影:馬場順一さん)



タンナトリカブト



紅葉



キュウシュウコゴメグサ

~編集部からのお知らせ~

① 詩歌・句・イラスト募集！ 皆様の作品をお待ちしています。気軽にご参加ください。

② 投稿・ご意見などをお寄せください。(編集部：馬場順一)

〒841-0053 鳥栖市布津原町 61 A12-11 携帯:090-5084-2649

(Eメール) f_baba841@ybb.ne.jp





観覧会会場までの案内

交通手段が無い場合は、担当者までご連絡！

①11/8 ⑦12/20 森林公園(佐賀市)



②11/15 ⑥12/13 東よか干潟(佐賀市)



③11月22日 林業試験場(佐賀市)



④11月29日 石井樋公園(佐賀市)



⑤12月6日 巨勢川調整池(佐賀市)



⑧12月23日 肥前鹿島干潟(鹿島市)





観察会などのご案内 (2015年11月~12月)

① 11月8日(日) ⑦ 12月20日(日) 森林公園観察会(佐賀市)

[時間&場所] 9:00
佐賀市久保田町 県立森林公園・北側駐車場
[担当] 島田 洋さん(佐賀市)
[携帯] 090-2393-1286
[見どころ] 工事の影響と时期的なことで寂しかった森林公園も冬鳥たちで賑やかになってくるでしょう。

② 11月15日(日) ⑥ 12月13日(日) 東よか干潟(大授搦)観察会(佐賀市)

[時間&場所] (11/15) 10:00 (12/13) 9:00
佐賀市東与賀町 東よか干潟展望台
[担当] 田中丸 雅雄さん(佐賀市) 080-1707-9225
加藤 芳隆さん(上峰町) 090-4510-1560
[見どころ] シギ・チドリたちに代わり、これからはカモ&カモメの天国になります。

③ 11月22日(日) 林業試験場野鳥観察会(佐賀市)

[時間&場所] 9:00
佐賀市大和町の県林業試験場駐車場
[担当] 宮原 明幸さん(佐賀市) 090-2393-1286
中島 由美子さん(基山町) 080-1778-2077
※当日は、林業試験場の建物は閉館しており、トイレは使用できません。

④ 11月29日(日) 石井樋観察会(佐賀市)

[時間&場所] 9:30
佐賀市大和町 石井樋公園「水ものがたり館」
[担当] 島田 洋さん(佐賀市) 090-2393-1286
青柳 隆さん(小城市) 090-8642-8269
※「さが水ものがたり館」主催の探鳥会ですが、支部の観察会としても行います。
スコープをお持ちの方は持参して下さい。

⑤ 12月6日(日) 親子&初心者のためのB.W. in 巨勢川調整池(佐賀市)

[時間&場所] 9:00 佐賀市金立町・巨勢川調整池内の東名(ひがしみょう)遺跡展示館駐車場
[担当] 中村さやかさん(鹿島市) 0954-60-4424
島田 洋さん(佐賀市) 090-2393-1286
[見どころ] 池一周約2時間の間に、おもわぬ鳥に出会うかもしれません。

⑧ 12月23日(祝) 肥前鹿島干潟(新籠)観察会(鹿島市)

[時間&場所] 9:00
鹿島市北鹿島 干潟展望台
[担当] 馬場 清さん(嬉野市) 090-1084-3852
中村 さやかさん(鹿島市) 0954-60-4424
[見どころ] ラムサール条約登録後、初の支部観察会です。

共通事項

- ① 資料代、保険代として100円頂戴しています。
- ② 雨天中止。(前夜 18:55 のNHK 天気予報で降水確率 50%以上の場合、原則として中止)
- ③ 集合に遅れる時は早めに担当者に連絡し、会場に不慣れな場合は、必要な指示を受けて下さい。
- ④ 帽子、雨具、水筒などは適宜ご持参ください。
- ⑤ 場所や交通手段、便乗の可否などのお問合せは各担当か事務局まで。

「野鳥さが」 ~日本野鳥の会佐賀県支部 会報~
公益財団法人 日本野鳥の会 〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
電話 03-5436-2626(代) FAX 03-5436-2636
日本野鳥の会佐賀県支部 支部長：宮原明幸
事務局：島田 洋(電話：携帯 090-2393-1286)
〒849-0934 佐賀市開成 1-3-11
郵便振替 01710-8-82339 「日本野鳥の会佐賀県支部」